



文化財愛護  
シンボルマーク

北条町埋蔵文化財報告書28

鳥取県東伯郡北条町

Chōnai  
**町内遺跡発掘調査報告書**

第 8 集



鳥取大学附属図書館



0050294172

1999.3

北条町教育委員会





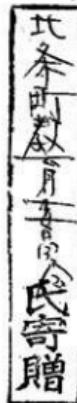
鳥取県東伯郡北条町

Chōsei  
町内遺跡発掘調査報告書

第 8 集

1999. 3

北条町教育委員会



## 序 文

我が国は近年、文化財保護の意識が徐々に高まりつつあり、開発に伴う発掘調査を主として埋没していた歴史、文化が明らかになってきていることは非常に喜ばしいことあります。しかしその反面、開発と文化財保護との調整がたいへん重要となっており、本町としましても日々努力しているところあります。

北条町は、鳥取県中部を流れる天神川の下流部西岸に位置する総面積21kmの小さな町ですが、「北条町遺跡分布図」によりますと、丘陵部を中心に約600基にのぼる遺跡が存在し、その分布密度は県下第一と言われています。このことから、当地が原始、古代から文化の栄えた地域であることを裏づけております。

今回の調査は、北条町米里、島、北尾、弓原地区を南北に貫くかたちで行われる一般国道313号（地域高規格）北条倉吉道路工事に伴い、工事予定地内の遺跡の有無、範囲を確認するための試掘調査であります。北条町教育委員会が主体となり、事業主体者をはじめ、地元関係者と緊密な連絡を取り合い調査を進めてまいりました。

調査にあたって、鳥取県教育委員会文化課及び鳥取県埋蔵文化財センターのご指導はもとより地元作業員、その他調査関係者各位の多大なるご理解、ご協力をいただきました。その結果、島地区において島古墳群の確認、北尾地区において北尾釜谷遺跡の新発見などの成果を得るに至り、深く感謝申し上げる次第であります。

これを契機といたしまして、地域の生活文化水準向上に資する文化財の保護に一層力を注いでいく所存でありますので、今後とも各位のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

1999（平成11）年3月

鳥取県東伯郡北条町教育委員会

教育長 吉田俊夫

## 例　　言

- 1 本報告書は、平成10年度、鳥取県東伯郡北条町教育委員会が国と県から補助金を受けて実施した「町内遺跡発掘調査事業」の報告書である。
- 2 今年度の調査は、鳥取県東伯郡北条町米里字摺鉢谷峯、鳥字岩山、北尾字釜谷、北尾字八幡山、弓原字臼田において、トレンチによる試掘調査を行い本報告書を作成した。
- 3 本書の執筆・編集は清水直樹が行った。
- 4 遺構の実測、図面作成、写真撮影は調査に携わった全員の協力により清水直樹が、遺構図の整書は清水直樹・清水紀子が行った。
- 5 本書に使用した方位は全て磁北を示す。
- 6 図面、写真、出土遺物等は北条町教育委員会が保管している。

## 本文目次

第1章	調査に至る経過	1
第2章	位置と環境	2
第3章	調査の概要	3
第4章	まとめにかえて	10

## 挿図目次

挿図 1	北条町内遺跡分布図	
挿図 2	トレンチ配置図①（米字字摺鉢谷峯地区）	3
挿図 3	トレンチ配置図②（鳥字岩山地区）	5
挿図 4	トレンチ配置図③（北尾字釜谷地区）	6
挿図 5	トレンチ配置図④（北尾字八幡山地区）	6
挿図 6	トレンチ配置図⑤（弓原字白田地区）	7
挿図 7	トレンチ 6 平断面図	7
挿図 8	トレンチ13平断面図	7
挿図 9	トレンチ11平断面図	8
挿図10	トレンチ17平断面図	8
挿図11	トレンチ20平断面図	8
挿図12	トレンチ19平断面図	9
挿図13	石蓋土塗墓平断面図	9
・報告書抄録		11

## 図版目次

図版 1	島古墳群遠景、北尾釜谷遺跡遠景、T13完掘状況、T17箱式石棺墓	
図版 2	島字岩山地区石蓋土塗墓、T20箱式石棺墓、T4～T17出土遺物、T19出土遺物	



- |                  |            |             |
|------------------|------------|-------------|
| A. 今回試掘調査地       | 1. 曲古墳群    | 2. 土下古墳群    |
| 3. やすみ塚（土下213号墳） | 4. 茶臼山古墳群  | 5. 北尾古墳群    |
| 6. 島古墳群          | 7. 北尾遺跡    | 8. 島遺跡      |
| 9. 曲226号墳        | 10. 船渡遺跡   | 11. 米里銅鐸出土地 |
| 12. 米里第一遺跡       | 13. 米里第二遺跡 | 14. 天神川河床遺跡 |
| 15. 宇ノ塚遺跡        | 16. 殿屋敷遺跡  | 17. 馬場遺跡    |
| 18. 用露鼻遺跡        | 19. 長烟遺跡   | 20. 茶臼山要害   |
| 21. 中浜遺跡         | 22. 下神1号墳  | 23. 曲宮ノ前遺跡  |
| 24. 曲第一（岡）遺跡     | 25. 島苅山遺跡  |             |

擇図1 北条町内遺跡分布図

## 第1章 調査に至る経過

今回の調査は、北条町米里、島、北尾地区の西側に位置する丘陵地をとおり、弓原地区の水田地帯を南北に貫くかたちで一般国道313号（地域高規格）北条倉吉道路工事を行いたいとの連絡が鳥取県倉吉土木事務所工務第一課からあったため、本工事予定地内における埋蔵文化財の取り扱いについて工事との調整を図るべく協議を行った。その結果、本工事予定地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である島古墳群等が存在するため、トレンチによる試掘調査を実施することになった。

そこで、文化財保護の立場から双方の事業において工事施工予定期間等と発掘予定箇所、そして調査体制等を考慮しながら調整を図るよう互いに確認しあったうえで、北条町教育委員会は鳥取県教育委員会とも協議を行い、工事予定地内の遺跡の有無、また分布範囲等を確認するため次のように調査団を編成し平成10年7月から11月にかけて、国及び県の補助金を受けて町内遺跡発掘調査を行った。

### 平成10年度調査体制

調査主体 北条町教育委員会

教育長 吉田 俊夫

調査指導 鳥取県埋蔵文化財センター

調査担当 清水 直樹（担当、教育課社会教育係主事）

文化財保護委員 松本達之・宇田川 宏・西村勝義・日置条左エ門・前田明範

事務指導 鳥取県教育委員会文化課

事務担当 清水 直樹（担当、教育課社会教育係主事）

## 第2章 位置と環境

北条町は、鳥取県のほぼ中央部に位置し、東には県内3大河川の一つである天神川を隔てて羽合町、西は大栄町、南は倉吉市に接し、北には日本海が広がる。町域は、東西5.6km、南北4.7km、総面積20.99kmの小さな町である。

本町北部には、東西12km、南北1.5kmの規模で、大栄町から羽合町にかけてまたがる北条砂丘がある。その南には天神川によって上流から運ばれてきた土砂が堆積することで形成された沖積平野で、高低差が少なく平坦な地域で古くから北条田園ともいわれた北条平野が接している。本町南部は、倉吉市と本町を二分するならかな丘陵で標高70mの土下山、また標高171mの蜘蛛ヶ家山に代表される丘陵地帯があり、本町の地形構成を以上の3地域に分けることができる。

本町の遺跡分布状況を、砂丘地、平野部、丘陵地別に述べてみることにする。

砂丘地では、隣町羽合町から、砂丘の固定化と形成時期を決定するクロズナ層から、古墳時代を代表する超一流の砂丘遺跡、長瀬高浜遺跡が発見されている。本町では、江北浜北野神社付近の河川工事の際、土師器、須恵器、土馬、銅鏡、鏡片などが出土し、下神及び弓原浜の採砂場からは、弥生式土器、土師器片が出土していることから、砂丘地は弥生時代から古墳時代にかけて人々の生活の場であったことがうかがえる。

平野部においては、昭和27年の北条川改修工事の際に発見された島遺跡があり、縄文時代前期から晩期にまたがる土器をはじめ、石器、ニホンシカ・イノシシを中心とした動物骨格片が発見されている。つづいて昭和58年に行われた災害復旧工事に伴う調査において、石器や丸木舟、縄文貝塚が発見されている。また、対岸に位置する米里船渡遺跡でも、周辺の畠から縄文土器片、水田下よりひきりうす、住居の用材とみられる木製品が検出されている。平野部と丘陵部の境界にあたる地域に位置する島、船渡の両地区において、漁業狩猟が当時主な生活手段であったことは、貝塚、丸木舟の存在のほか、北条平野が当時、繩文海進によってラグーンが形成されており、このラグーンに面した湖岸に当地域が位置していたことが推測できる。

丘陵地においては、茶臼山古墳群、土下古墳群、北尾古墳群、島古墳群、曲古墳群など約600基が存在する県下有数の古墳密集地である。中でも、土下古墳群に含まれる210号墳及び、213号墳から全国的にも貴重な鹿埴輪、鹿の子模様の入った人物埴輪が出土していることから、古墳時代に当地の繁栄した姿がうかがえる。

今回の試掘調査地は、島古墳群を中心とした古墳密集地として知られ、地域の歴史をうかがううえで重要な地域であるが、町内にねむっている多くの遺跡のうち調査を終えたところはごくわずかであり、詳しい歴史的環境の解明はこれからである。

### 第3章 調査の概要

調査地点 北条町米里字摺鉢谷峯～弓原字白田

調査期間 平成10年7月14日～11月25日

調査面積 447.12m<sup>2</sup>

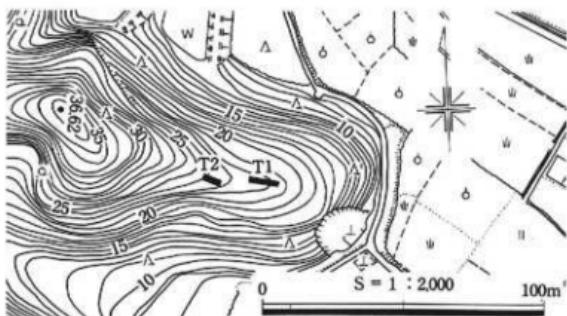
調査概要 工事予定地は、米里字摺鉢谷峯、島字岩山、北尾字釜谷、北尾字八幡山の丘陵地、北尾字穂ノ香から弓原字白田までの平野部を南北に縦断しており、現況は丘陵部が雑木林、平野部は水田として土地利用されている。

今回の調査は、本工事予定地の丘陵尾根部付近や比較的ゆるやかな傾斜地、斜面途中のテラスを中心とし長さ3～20.5m、幅0.6～4mのトレンチ27本を設定し遺跡の有無とその範囲の確認を行った。

その結果、島字岩山地区に設定したT4～7、T9～11、T14から古墳の盛土が検出されたほか、T17からは箱式石棺墓、T12付近から石蓋土拵墓が確認されている。(島古墳群)

また、北尾字釜谷からはT20から箱式石棺墓、T19・T22からは溝状遺構が確認された。(北尾釜谷遺跡)

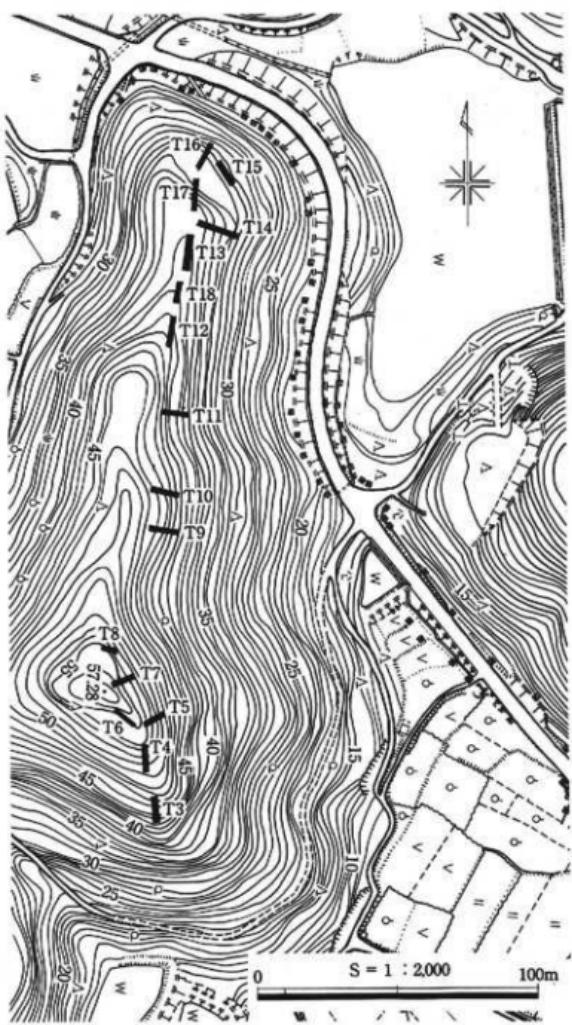
トレンチの規模・面積・検出遺構・遺物について表にまとめた。



挿図2 トレンチ配置図①(米里字摺鉢谷峯地区)

各トレンチ調査状況一覧表

トレンチ番号	地区	規模(m)	面積(m <sup>2</sup> )	出土遺物	遺構
T 1	米里字摺鉢谷峯	2.0×10	20.0		
T 2	タ	2.0×6.5	13.0		
T 3	島字岩山	1.7×8.5	14.45		
T 4	タ	1.5×9.2	13.8	土師器片	古墳盛土
T 5	タ	1.7×7.3	12.41		古墳盛土
T 6	タ	1.5×8.0	12.0		古墳盛土
T 7	タ	1.7×8.2	13.94		古墳盛土
T 8	タ	1.7×5.0	8.75		古墳と思われる高まりにかかる
T 9	タ	1.6×9.5	15.2		古墳盛土
T 10	タ	1.5×9.5	14.25	須恵器片	古墳盛土
T 11	タ	1.5×9.4	14.1		古墳盛土
T 12	タ	1.5×10.5	15.75		
T 13	タ	2.0×12.4	24.8		周溝検出
T 14	タ	(1.7×10.6) +(1.0×3.5)	21.52		古墳盛土
T 15	タ	1.5×8.3	12.45		
T 16	タ	1.5×9.6	14.4	土師器片	
T 17	タ	1.0×9.7	9.7	土師器片	箱式石棺墓
T 18	タ	0.6×7.0	4.2		
石蓋土拡墓	タ	-	-		
T 19	北尾字釜谷	(2.0×12.5) +(4.0×5.7)	47.8	須恵器片及び 土師器片	溝状造構
T 20	タ	2.0×13.3	26.6		箱式石棺墓
T 21	タ	2.0×12.0	24.0	土師器片	
T 22	タ	2.0×7.0	14.0		溝状造構
T 23	北尾字八幡山	2.0×7.0	13.0		
T 24	タ	2.0×6.5	12.0		
T 25	タ	2.0×20.5	41.0	土師器片	
T 26	タ	1.0×5.0	5.0		
T 27	弓原字白田	3.0×3.0	9.0	土師器片	



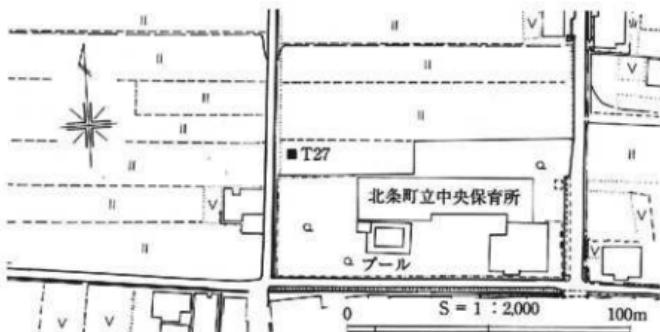
挿図3 トレンチ配置図②(島宇岩山地区)



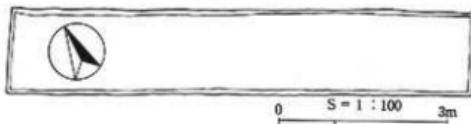
挿図4 トレンチ配置図③（北尾字釜谷地区）



挿図5 トレンチ配置図④（北尾字八幡山地区）



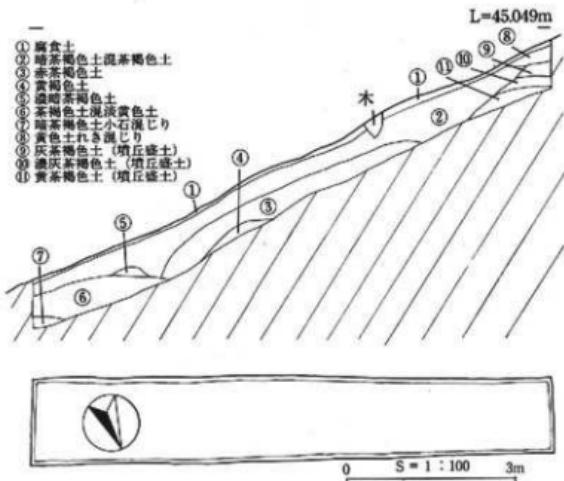
挿図6 トレンチ配置図⑤(弓原字田地区)



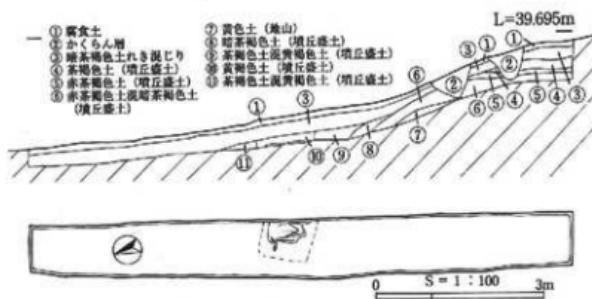
挿図7 トレンチ6平面面図



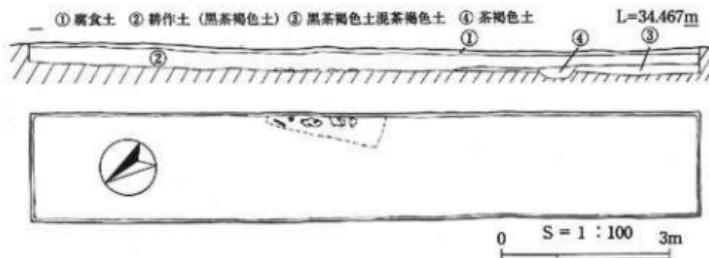
挿図8 トレンチ13平面面図



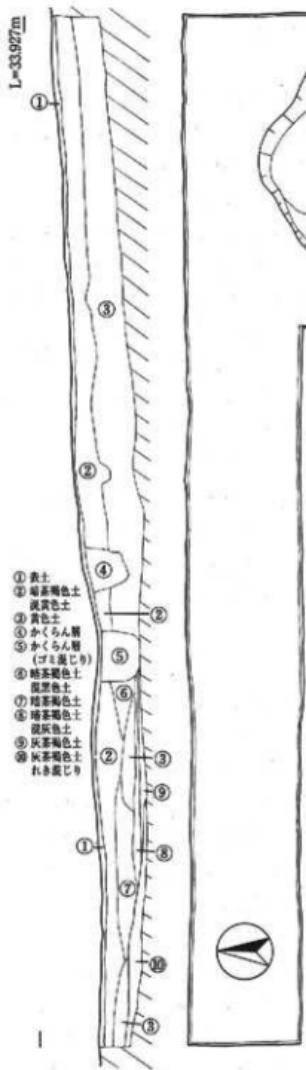
挿図9 トレンチ11平断面図



挿図10 トレンチ17平断面図



挿図11 トレンチ20平断面図



挿図12 トレンチ19平断面図



挿図13 石蓋土塗基平断面図

## 第4章 まとめにかえて

平成10年度は、一般国道313号（地域高規格）北条倉吉道路工事に伴う試掘調査において米里字摺鉢谷地区2本、島字岩山地区16本、北尾字釜谷地区4本、北尾字八幡山地区4本、弓原字白田地区1本の計27本のトレンチを設定し、遺跡の有無を確認した。

島字岩山地区の丘陵地尾根上には、すでに島古墳群が周知の遺跡として存在することが知られている。この地域が今回の工事予定地と重複することから、丘陵地尾根上の墳丘と思われる高まり、また平坦面付近にトレンチを設定した。その結果を「北条町遺跡分布図」に示される古墳位置と照らし合わせて考察すると、T4～T6から島9号墳、T6・T7から島6号墳、T8から島4号墳、T9から島3号墳、T10から島8号墳そしてT11から島2号墳と思われる墳丘盛土がそれぞれ確認されている。さらに、T13から古墳の周溝、T14から墳丘盛土、そしてT17からは蓋石が覆われたままの箱式石棺墓（蓋石縦60cm横68cm）が確認されており、これらは島7号墳の施設と推測される。各古墳の年代であるが、いずれからも年代を示す遺物の出土がなかったため不明である。

北尾釜谷地区では、八幡山山頂から南にのびる尾根上平坦面付近にトレンチ4本を設定したところ、T20から蓋石が消滅した箱式石棺墓（ほりかた192cm×68cm）を検出したほか、T19、22から遺物を伴った溝状遺構が確認された。この溝状遺構の性格等は不明であるが、その時代は底から出土した遺物から古墳時代後期頃と推定される。なお、これらのトレンチから遺構、遺物が検出されたことから、この地区的尾根上平坦面を遺跡の範囲と定め、新発見の遺跡、北尾釜谷遺跡とした。

北尾字八幡山地区ではT25から土師器片が出土しているが、その数は2点と少なく摩耗が著しいうえ、同地区に設定したトレンチのいずれからも遺構が検出されなかつことから出土遺物は丘陵上部からの流れ込みと推定される。同様に平野部に位置し現況が水田となっている弓原字白田地区に設定したトレンチからも遺物が確認されたが、最上層（耕作土）からの出土であり、本地区において戦後の圃場整備の折に山土が入れられた経緯があることを考えると、出土遺物は山土に混入した状態で移動したものと推定され、本地区に遺跡は存在しないと考えられる。また、米里字摺鉢谷地区に設定したトレンチからは遺物、遺構とも確認されなかった。

今回の試掘調査は、周知の遺跡である島古墳群の確認、北尾釜谷遺跡の新発見という成果を得るに至り、この地域における当時の繁栄の姿がより明確なものになった。平成9年度から平成10年度にかけて行ってきた一般国道313号（地域高規格）北条倉吉道路工事にともなう試掘調査で確認された米里三ノ崎遺跡、島古墳群、北尾釜谷遺跡については今後、詳細な調査が予定されておりこの地域の歴史を解明していくうえでの成果が期待される。

## 報告書抄録

ふりがな	ちょうかくせきはくつらうねにく(しらひし)							
書名	町内遺跡発掘調査報告書第8集							
副書名								
卷次	第8集							
シリーズ名	北条町埋蔵文化財報告書							
シリーズ番号	28							
編著者名	清水直樹							
編集機関	北条町教育委員会							
所在地	〒689-2111 鳥取県東伯郡北条町土下112 TEL 0858-36-3111							
発行年月日	西暦1999年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東經	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	
島古墳群	鳥取県 東伯郡 北条町 島字岩山	31366	34°28' 06"	133°48' 33"	1998.7 ~1998.9	211.72	一般国道 313号 (地域高 規格) 北条倉吉 道路工事	
北尾釜谷跡	鳥取県 東伯郡 北条町 北尾字 釜谷	31366	35°28' 16"	133°48' 33"	1998.9 ~1998.10	112.40		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
島古墳群	古墳群		箱式石棺墓1基 石蓋土括墓1基 古墳周溝		土師器片及び 須恵器片			
北尾釜谷跡	古墳及び 遺構	古墳時代後期	箱式石棺墓1基 溝状遺構		土師器片及び 須恵器片			

# 図版

# 図版 1



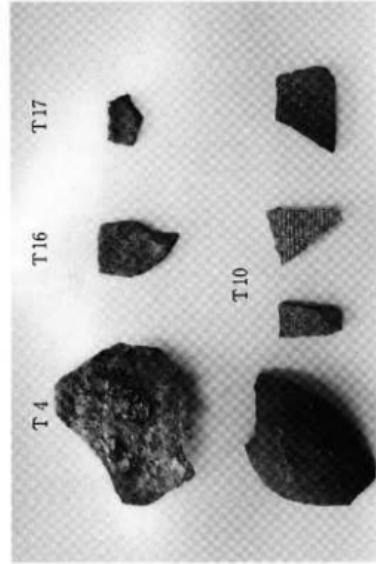
図版 2



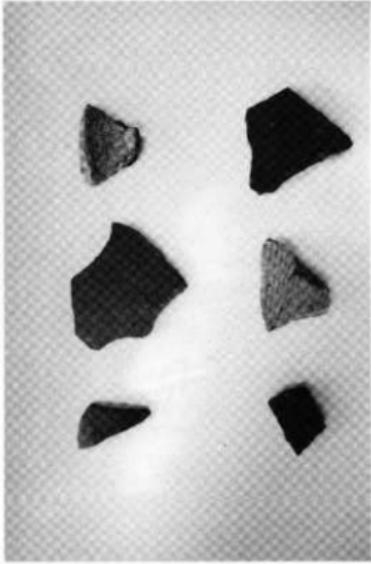
馬子岩山地区石蓋土堆墓（北から）



T20箱式石棺墓（南から）



T 4 ~ T17出土遺物



T19H土壤物

平成11年3月印刷

平成11年3月発行

北条町埋蔵文化財報告書28

町内遺跡発掘調査報告書第8集

編集 烏取県東伯郡北条町土下112

発行 北条町教育委員会

印刷 烏取県東伯郡羽合町長瀬818-1

製本 勝美印刷株鳥取支店